



変化を自ら起こす 人を増やしていく

一般社団法人ゼロ・ウェイスト・ジャパン 代表理事
坂野 晶氏



——ゼロ・ウェイストとの関わりについて教えてください。

学生時から環境政策に携わりたいという思いがありましたが、友人の故郷であった徳島県上勝町にある、NPO法人ゼロ・ウェイストアカデミーの代わりに偶然関わったのが直接のきっかけでした。

私自身、実は鳥が好きだったことから環境問題に関心を持ったのであって、最初から「ごみ」そのものに強い情熱があったわけではありません。ただ、活動を通じて感じたことは、ごみに無関係な人はいないということでした。小難しい環境政策の話をしようとしてもなかなか届かないですが、例えばいかに分別の手間を減らすかという話題は地域住民の方々との対話のきっかけになり、やったらやった分だけ成果につながる良いテーマだと思っています。

——現在の取組について教えてください。



Green Innovator Academyは2021年にスタート。世界中から参加者が集まる。

2020年に一般社団法人ゼロ・ウェイスト・ジャパンを立ち上げ、上勝町で培った経験を活かし、地域という単位で団体や自治体と一緒にゼロ・ウェイストを進める取組をしています。その過程で長年私たちに投げかけられた問いである、「上勝町だからできたのだろう」を覆す挑戦をしています。確かに地域特性も要因の一つではありますが、要素分解を丁寧に行うことで他地域にも広げていくことができます。例えば長野県小布施町もその1つ。上勝町とは全く異なる自治体なので、小布施町だからこそできるアプローチも同時に考えています。

一方で、日本中どこに行ってもそもそも変化を起こしていくことに難しさを感じます。変化を自ら起こしていく人材が圧倒的に足りていません。そこで、「2030年までに1,000人のイノベーターを育成する」という目標を掲げ、Green Innovator Projectを2021年にスタートさせました。環境について知識を得る研修プログラムはすでに無数にあると思いますが、イノベーターたちのコミュニティづくりの観点も兼ね備えたものはまだほとんどありません。本プロジェクトのメインとなるGreen Innovator Academyの専任は、分野横断と世代縦断です。社会の変化は一つ

の組織や一定の世代だけでは起こり得ず、あらゆる地域や組織のリーダーやコーディネーターとなる存在が欠かせないことが重要です。実際にこのプログラムの卒業生が、ゼロ・ウェイスト・ジャパンに関わる地域に入りこんで活躍し始めています。ライフスタイルの啓発者も増えている一方で、より複雑なコーディネートができる人を増やしていきたいですね。ちなみに、基本理念は説明した通りですが、なにより自分が若いころに受けたかったプログラムを今行っているというのが本音です。

——読者へのメッセージをお聞かせください。

プロジェクトの参加者を見ていて、頭より体が先に動くタイプも、どちらかというとしっかり検討した上で行動するタイプも、どちらも相互にいい影響を受けていたことが印象的でした。いずれも「できることから必ずやる」という意識が重要だと思っています。

【聞き手：つな環編集部】

坂野 晶(さかの あきら)

1989年生まれ、兵庫県出身。日本初の「ゼロ・ウェイスト宣言」を行った徳島県上勝町の廃棄物削減、循環型社会のモデル形成に貢献。2019年、世界経済フォーラム年次総会（ダボス会議）共同議長に選出。2020年よりゼロ・ウェイスト・ジャパン代表。2021年、脱炭素イノベーションのための人材育成プログラム「Green Innovator Academy」を共同設立。